てっぺんの葉っぱ

「失敗」のち「成功」ところにより「雷」

4年　S・Nさん

この物語は主人公のマチが二階から水をすてて副校長先生の頭にかけてしまったことを、どう考えるかというお話です。六歳のころ、私も同じような経験をしたことがあります。母にペンをわたそうとした際、母と私の間につくえがあり、遠回りすることが面どうだったのでペンを投げ母に当たってしまいました。幸い当たったのがうでではけがはありませんでしたが、母にはきつくしかられました。当時はまだ幼くて、想像できませんでしたが、もしも目に当たって運悪く失明していたらと思うと今でもぞっとします。

誰でも必ず失敗します。大事なことは失敗をただの失敗に終わらせないためにはどうすればいいかと考えることだと思います。以前、友達が失敗した時に、先生が話してくれた「失敗をしない人は何もやっていない人だけだから失敗はがんばったという証こです。反省して、めげずに取り返せばいいのです」という言葉が心に残っています。「失敗は成功のもと」ということを伝えたかったのでしょう。

私は、失敗してしまったら「失敗した!」という事実だけをずっとくよくよと考えてしまいます。これだと次に挑戦するときにおく病になってしまい、逆に「失敗は失敗のもと」になってしまいます。マチはもともと考えることが苦手でしたが、てっぺんの葉っぱに勇気づけられて、どうしたらよかったかではなく、これからはどうするべきかを考え、行動することができました。失敗を成功につなげるためには、考えること、それもなにを考えるべきかから、自分の力で考えぬくことが大事だと気付かされました。

このマチの物語は私にとって「てっぺんの葉っぱ」になって「明日の失敗」につながってくれると思います。